

今治市中心市街地グランドデザイン 概要版（素案）

今治城内堀沿い／金星川（外堀跡）沿い【提案】
海とつながった城下町の足跡を辿る散歩道
ミズベ・ウォーク

今治城周辺
海水を引き込んだ堀は、様々な生き物の貴重な生息環境となっている。堀沿いの散策路を充実させつつ、港まで連続した歩行者空間を形成し、港・城の回遊性を高める。

蒼社川周辺（計画中）
かつての城下町の外堀で、中心市街地の縁を流れる蒼社川は、貴重な自然環境を生かして市民がアクティビティを楽しんだり、ふらっと立ち寄り憩える公共空間として”まちの縁側”のような場所となることを目指す。

ネウボラ施設（計画中）
子育て世代の相談所として、また屋内外で子どもが遊ぶことのできる場所としてまちに開かれた施設整備を検討中。
複合庁舎（計画中）
市庁舎移転とともにまちに開かれた施設・広場を検討中。

芝っち広場【提案】
日常からイベントまで大勢の人が集う祝祭広場
ドンドビ・フェスプラザ

今治市役所
庁舎機能の移転を検討しており、移転後は文化的施設として丹下健三の設計した建築を活かしたリノベーションを検討している。

広小路（今治停車場線）【提案】
緑陰と賑わいあるみち広場
グリーン・アベニュー

駅前広場【提案】
しまなみ海道・今治の玄関口に複合機能を備えた交通拠点
しまなみモビリティハブ

サイクリングターミナル

旧今治小学校

市役所前広場【提案】
丹下建築と一体で活用を図るまちに開かれた市民広場
タンゲ・アートプラザ

広小路（今治港線）【提案】
緑豊かな環境軸として現市庁舎-港をつなぐシンボルストリート
グリーン・アベニュー

寺町周辺
寺社は音楽等のイベント会場としても活用されており、今治にしかない文化創出の場としても期待される。老朽化した木造家屋や空き家の状況を把握しながら、歴史的な街並みを活かした拠点づくりが求められる。

美保町周辺
古くからの漁師町として、海沿いに多くの船が集まる風景は海外からの観光客にも注目されている。歴史ある石積みの防潮堤が残るなど、既存資源を活かしたまちづくりが求められる。

今治内港沿い【提案】
港から城までをつなぐ海沿いの散歩道
ミズベ・ウォーク

はーばりー・今治港周辺
『「交通」の港から「交流」の港へ』を基本コンセプトとしたみなと再生事業により整備された。月に2回おこなわれるせとうちみなとマルシェでは、多くの人が集まり賑わいが生まれている。

新町商店街【提案】
新たなプレイヤーのチャレンジの場として活用
ラボ・ストリート

今治商店街【提案】
子どもの遊び場となる屋根付き広場
プレイ・ストリート

本資料に掲載する施策案とイメージは、中心市街地地区の目指すべき姿を表したものであり、取組の方向性を示すものです。今後、関係者との協議・調整により変更となる可能性があります。

中心市街地まちづくり市民会議

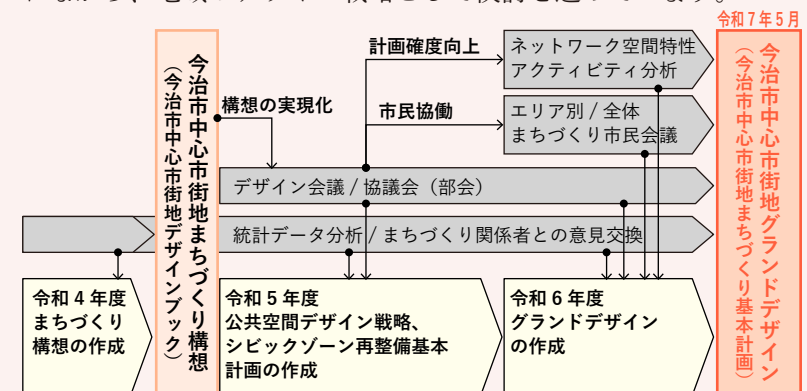
今治市中心市街地まちづくりについて

背景

今治市は、人口減少・少子高齢化に対応したコンパクトなまちづくりによる持続可能な都市経営の実現を目指しています。このうち中心市街地は、多様な都市機能と地域資源を有する一方で、まちなかの公共施設の多くは老朽化が進み、道路などの都市基盤施設も実態に即した機能再編、将来を見据えたあり方の再検討が求められています。近年は今治港周辺で「みなと再生」における環境整備がなされ、「せとうちみなとマルシェ」の定期開催により空間活用が進むなど、まちに賑わいが生まれつつあります。そのため、今後は公共施設・空間の再編を契機に、公民の取組を連携させながら、日常的にまちなかに人がいる風景の広がる中心市街地へと転換していくことが求められています。

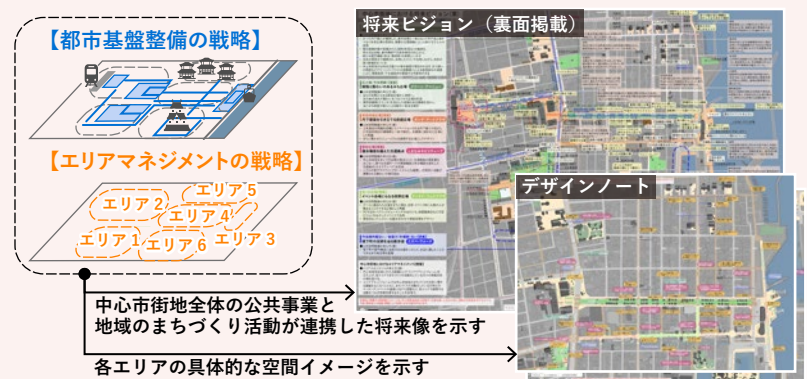
これまでの検討経緯について

中心市街地まちづくりの検討は、令和4年度に民間でまちづくりの活動をされている方々と中心市街地の課題や将来像のお話を伺うところからスタートしました。その後策定した「中心市街地まちづくり構想」をベースに、デザイン会議や協議会、各エリアの関係者へのヒアリング、まちなかの公共空間の分析などを積み重ねながら、地域のデザイン戦略として検討を進めています。



目指すまちづくりの将来像

今後の中心市街地におけるまちづくりでは、港で生まれ始めている賑わいをまちの日常へ広げる軸をつくることを目指します。そのために①中心市街地の全体計画と複数の事業・活動の実践が連動した長期間のまちづくり、②行政による公共空間整備と、地域の方々の組織活動（エリアマネジメント）の連携によるまちづくりをおこなっていきます。



今後は都市基盤整備とエリアマネジメントを連携させながら、グランドデザインに示すまちづくりのビジョン実現を目指します

将来ビジョン（素案）

広小路(今治港線)【提案】
緑豊かな環境軸として
現市庁舎-港をつなぐ
シンボルストリート

- かつて丹下健二が構想した、都市空間と一体で市庁舎・港をつなぐ市民広場の思想を、緑豊かな環境軸によって新たなかたちで実現
- 震災復興計画で広幅わたる20間(約36m)の幅員を、グリーン・フラの導入による雨水流出抑制、都市環境と生物多様性の向上など、新たな都市機能(防災・環境等)の実現にいかす
- 市民の寄附※で植樹され、成熟したクスノキを残しながら、市民の憩う居場所をつくる
- ストリートマルシェ、イルミネーションなどイベント利用が可能

広小路(今治停車場線)【提案】
緑陰と賑わいあるみち広場
グリーン・アベニュー

- ・ まちの玄関口である駅前広場から港側へ、既存のクスノキを活かしながら、歩行者の流れや賑わいをつなぐみち広場を形成
- ・ ほこみち制度の導入による賑わい創出を検討

市役所前広場【提案】
丹下建築と一体で活用を図る
まちに開かれた市民広場

- ・市庁舎移転後に、丹下健三の設計した市役所周辺の建築群のリノベーションとともに、まちに開かれた広場として一体での活用を検討
- ・リノベーションする建築群と広場での一体的な管理運営の可能性を検討

駅前広場【提案】
しまなみ海道・今治の玄関口に
複合機能を備えた交通拠点
しまなみモビリティハブ

- ・サイクリストをはじめ中心市街地を回遊する際の拠点として、サイクリングターミナルなど周辺施設と連携ながら、様々な交通モードの乗換機能と待合機能を強化した交通拠点（モビリティハブ）を形成
- ・モビリティマネジメントによる日常的な公共交通の利用促進を図る

芝っち広場【提案】
日常からイベントまで
大勢の人が集う祝祭広場
ドンドビ・フェスプラザ

- ・ゲートに囲まれた広場をまちに開き、日常・イベント時に大勢の人が集まることのできる広場として再編
- ・FC今治のパブリックビューイングのほかにも、映画鑑賞会など大型イベントを生かしたイベントで活用
- ・公共資産としての有効活用の展開、定型化、収益化等を図る

今治城内堀沿い／金星川(外堀跡)沿い【提案】
海とつながった城下町の
足跡を辿る散歩道
ミズベ・ウォーク

- ・ 城下町の都市構造を伝える海とつながった水路をいかして、水辺に親しむことのできる歩行者空間を整備

中心市街地におけるエリアマネジメント【提案】

- ・ 中心市街地全体にわたる組織として「エリアプラットフォーム」を立ち上げ、各エリアでまちづくりの活動をしている方々の情報共有の場を設ける。
- ・ エリアプラットフォームでは中心市街地のまちづくりの方針に関する議論をおこなうとともに、まちづくりの活動をしている方同士のマッチングイベントの連携に向けた調整など、各エリアで展開する活動をつなぎ相乗効果を生むことを目指す。

本資料に掲載する施策案とイメージは、中心市街地地区の目指すべき姿を表し、ものであり、取組の方向性を示すものです。
今後、関係者との協議・調整により変更となる可能性があります。

